

闘病経験者の起用



千葉県がんセンターでは、相談員として乳がん経験者(早期)を起用。この画期的な取り組みに建設的批判の声も…。

- 乳がんの人に肺がんの気持ちがわかるのか。
- 早期がんの患者に再発患者の不安な気持ちがわかるのか。
- 他の拠点病院に応用可能なのか。
- 大学病院など様々な疾患を扱う病院で闘病 経験者を相談員として雇用すると、何の病気を患った人を雇えばよいのか。
- 多様な疾患をわずらった人を代弁できるという意味で、有資格者が対応することが現実的ではないかと思うが、いかがか。

がん医療新時代

生み出せ人材力

千葉県がんセンター一階にある患者相談窓口「ほっとステーション」。

「手術も終わったのに、なぜか落ち込んで仕方がない」という患者の話に耳を傾ける相談員の野田真由美さん(49)。「治療が一段落して家族も安心しているけれど、体は心通りでないし再発も心配で。ふとさみしくなったのかしらね」

「正職員は体験者」モヤモヤした心境を言い当てられて驚く患者に、「私も同じような体」

「新病院像」患者が描く



「チャイルド・ケモ・ハ」

ただ、体験者なら誰でもできるわけではない。間違った情報や助言は、患者を命の危険にさらしかねない。患者会などでの相談実績が評価された野田さんだが、内容によ



＜認定乳がん体験者コーディネーター＞

- 主催 NPO法人キャンサーネットジャパン
- 定義 乳がん患者・家族及び国民が「がん」と診断され直面する様々な問題を、解決できる・あるいは解決に導く既存の信頼性の高い情報にアクセスし、提供できる人材を養成する。特に、「認定乳がん体験者コーディネーター」は、乳がん医療情報（治療法他に関する情報）に特化したものとする。
- 対象 主たる治療（手術・放射線療法・薬物療法など）を終了した乳がん体験者、乳がん患者を持つ成人家族など
- 受講料 12万円
- 定員 25名
- 終了後の就労 希望する者は、NPO法人キャンサーネットジャパンの独立部門：「がん情報ナビゲーター」・「認定乳がん体験者コーディネーター」部門に所属し、今後、展開予定の「がん情報ふれあいサロン（仮称）」、外部機関からの要請に応じ、派遣・業務にかかわることができる。